



## わたらせ渓谷鐵道の活用

**質問** 渡良瀬渓谷の価値、資源を活かす観光潜在力を、わたらせ渓谷鐵道に活用すべきと考えるがどうか。

**答弁** わたらせ渓谷鐵道沿線には既存の観光資源が数多くあり、利用客の増加を目指し、観光案内やイベント案内の情報提供などに努めているが、同路線は桐生市を起点とし、今後合併する黒保根村を結ぶ、重要な生活路線と考えているので、沿線協議会とも連携し、路線の存続と観光開発を積

極的に進め、観光客の誘致促進に努めたい。

## バス事業の連携

**質問** 桐生広域圏や近隣都市との連携は重要と考え

るが、近隣都市で運行する路線バスとおりひめバスの接続はどう考えているのか。

**答弁** バス交通は採算性の問題から、現在は各自自治体が事業主体となり、公共交通の確保を図るため、それぞれの地域の中で整備されている。バス路線の接続については、輸送能力、利用者ニーズ、費用対効果、

(太田市の公共バスとおりひめバス)



鉄道網などを考慮し、それぞれの自治体との調整が必要であるので、検討を進めていきたい。

## 地域での次世代育成支援

**質問** 次世代支援行動計画を進めるための基本的な考え方について、どのように考えているのか。

**答弁** 平成十二年に作成した桐生市版エンゼルプランの基本理念を引き継ぎ、子育てを社会全体で応援することを基本として捉え、「地域における子育ての支援」「母子の健康確保や増進」「教育環境の整備」「生活環境の整備」「仕事や家庭との両立支援」「安全の確保」「要保護児童への対応」を柱に具

体的な支援策を立て、いろいろな角度から支援できるように計画している。

## 環境問題への取り組み

**質問** 新エネルギーに対する桐生市の取り組みについてどう考えているか。

**答弁** 庁舎内の節電対策については、常日頃から努力しているが、太陽光発電システムは、現段階での導入は使用電力量を確保できず難しいものと考えており、また、発電システムの桐生市単独の補助については今後の普及の状況を見守り、

(天然ガス公用車)



研究を深めたい。また、公用車の低公害車導入については、今後、環境を優先したものを考えていきたい。

## 介護保険の見直し

**質問** 今回の介護保険制度改革は、介護予防サービ

(介護保険課)



スの導入を名目にした、給付抑制と負担増の押し付けであると考えるがどうか。

**答弁** 法案の中に施設入所時のホテルコストの導入や新予防給付の創設などが盛り込まれていることは新聞情報などで承知している。今後、介護報酬の体系や利用の詳細などが明らかになる中で、実施可能な軽減制度をできる限り適用しながら利用しやすい介護保険となるよう努めていきたい。

## 行財政改革

**質問** 桐生市行財政改革

方針は、市民サービスの後退につながるものと考えているがどうか。

**答弁** 現状の桐生市として克服すべき行財政上の課題について、今後十年間における改革方針を示したものである。具体的な改革項目については、市民サービスに直接的・間接的に影響を及ぼすものも多くあるが、改革の実施にあたっては受益者負担の原則や他の同規模都市の状況等を踏まえ、サービスの後退ではなく、適正化を図ることを基本に取り組んでいくものである。

## コミュニティ放送

**質問** 災害時の情報伝達や平時の際の地域情報など、コミュニティFM放送の有用性を感じるが市当局の見解はどうか。

**答弁** 災害時の情報伝達手段として現時点でも最も効果的なものは同報系防災行政無線であり、国においても自治体に対して積極的に整備を呼びかけているが、多額の経費を要するため、県内でも整備率は五十パーセント台にとどまっている。コミュニティ放送は防災

## 認知症予防

**質問** 認知症に対する支援としてどのような事業を実施しているのか。

**答弁** 成年後見制度利用支援事業や認知症高齢者等福祉サービス利用支援事業

などのほかに、高齢者が住み慣れた地域で元気に暮らしていけるような支援を行っている。

(いきいき健康づくり体操)





## スポーツ拠点づくり事業

**質問** 国では地域の活性化をめざし「スポーツ拠点づくり事業」を進めているが、桐生市ではどのような対応を考えているのか。

**答弁** 総務省が「地方行財政重点施策」の一環として全国的に実施しようとして平成十六年九月に「スポーツ拠点づくり推進委員会」を設置した。平成十七年度は全国で二十八大会が選択され、財政支援を受け全国大会が開催される。桐生市としては、全国の推移を見守

る中でスポーツ振興のため検討を重ねていきたい。

## 観光ボランティアガイド

**質問** 観光ボランティアガイドの現況と合併後の基本的な考え方はどうなるのか。

**答弁** 現在、二十人の観光ボランティアガイドにより、桐生市を訪れる観光客のために要望に応じて観光施設の紹介・説明を行っている。新里・黒保根地区に必ずばらしい観光スポットがあり、そのエリアにおける観光ボランティアガイド

(新里村・山上の多重塔)



も、合併後必要と考えるので、その養成及び利用形態に合わせた増員が図られるよう支援していきたい。

## 学校教育

**質問** 群馬県における市内中学生の学力はどれくらい(コンピューター教室)



いか。また、夏休みなどの短縮や二学期制の導入についてどう考えているのか。

**答弁** 市内中学生の学力について、昨年実施の三年生を対象にした調査結果では、概ね県平均と同様な結果であった。また、授業日数の確保のため長期休業日の短縮や二学期制の導入について平成十七年度は実施しないが、学力の向上などの観点から長期休業日の短縮は、今後の検討課題と考えている。これからも少人数指導による個に応じたきめ細やかな指導を行っていく。

## 司法改革

**質問** 平成二十一年までに実施されることになった裁判員制度の導入についてどのようになっているのか。

**答弁** 裁判員制度は、国民が裁判員として、刑事裁判に参加し、罪の有無など裁判官と一緒に決定する制度である。本制度は裁判所が主体となつていものである。現時点ではまだ具体的な話がないので詳しいことはわからないが、協力量が合った場合は、可能な限り協力していきたい。

## 中・高年者の再就職支援

**質問** 中・高年者の再就職が難しい状況だが、対応策はあるのか。

**答弁** 就職相談については、主にハローワークで行っており、この出先機関である「桐生市高齢者就職相談室」では、平成十五年度において、職業紹介は八百三十件あり、そのうち二百八十人が就職した。また、市についても再就職のための技術取得としてパソコンなどの技術取得支援を行い、平成十五年度は百二十人の

受講があった。今後も関係団体と連携して、雇用拡大に努めていきたい。

## 命を大切に教育

**質問** 命を大切にする教育の一環である「いのちの大切さを伝える親子体験学習」について、どのような状況か。

**答弁** 県助産師会が実施している「いのちの大切さを伝える親子体験学習」については、平成十六年度は八校の小・中学校で実施した。自らの経験を交え、命の原点について語る助産師

の講演は、児童・生徒に深い感銘を与えている。今後も、豊かな心を育む教育の充実に努めていきたい。(赤ちゃんとのふれあい体験)



## 車イスシール

**質問** 内部障害者は、外見では障害かどうか分からないため、車イス用駐車場の使用を遠慮することがある。この改善のために、「ハート・プラス」マークの使用を研究したらどうか。

**答弁** 車イスシールは、障害者が利用できる施設や公共輸送機関であることを示す世界共通のマークであり、身体障害者手帳のある人へ無料で配布しているが、内部障害者に対する理解を深めるためにも、機会を見

(車イスシール)



て市民に周知していきたい。なお、「ハート・プラス」マークについては、他市の状況をしながら研究したい。

## 住居手当

**質問** 職員の住居手当について、国や他市と比較してどうか。

**答弁** 住居手当は、借家では家賃補助、自宅では主に住居の維持管理費用の補てんという趣旨で創設された。自宅の場合、国は新築後五年間に限り住居手当を月額二千五百円支給だが、桐生市は五年経過後も二千五百円支給している。また、前橋市及び太田市は四千元、高崎市は三千五百円を五年経過後も支給している。

## 合併後の産業振興施策

**質問** 少子・高齢化社会になった現在、福祉を支えるためにも市町村合併は必要であり、財源確保のための合併後の産業振興施策をどのように考えているのか。

**答弁** 福祉が充実し、市民が安心して生活できる都市づくりは、産業の活性化が不可欠であり、合併の産業施策の基本理念として、「産業活動が活発で人と物の交流が盛んな元気なまち」を掲げている。今後も、織物産業の育成支援や中小企

業の円滑な事業活動支援に努めていく。

## 水・山林に関する施策

**質問** 水・山林に関する施策について、どのように考えているのか。

**答弁** 桐生市は水と緑に恵まれている。これは、先人がしっかりと山づくりを行ってきた結果であり、次世代に引き継ぐことは大切な使命と考えている。山の持つ機能として、土砂流出を防止する機能や水を蓄える水源かん養機能、環境など大切な役割がある。水を

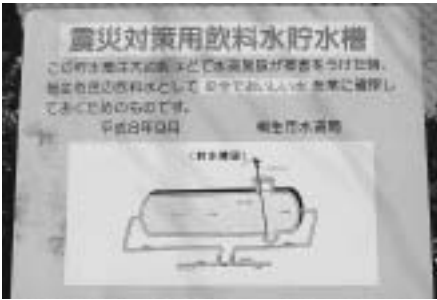
(桐生川源流林)



守ることは山林を守ることであり、将来に向けて桐生市の財産として、山の管理、水の管理を十分行っていく。

## 震災対策

**質問** 桐生市やその近辺で直下型地震が発生した場合（震災対策用飲料水貯水槽）



合の被害想定はどのようになるのか。

**答弁** 群馬県が平成十年に、直下型大地震が発生した場合の被害想定を、県北部、南東部、南西部について発表しているが、それによると、桐生市直下の「柏崎―銚子構造線」上を震源とする地震が発生した場合、建物大破、火災焼失、死者、避難者など大きな被害が発生し、また、ライフラインであるガスや水道も広範囲で供給停止となり、復旧に一週間から三週間程度を要するものとされている。

## 中学校統廃合

**質問** 現在、進められている中学校統廃合は、子供にとって望ましい教育環境の充実を目指すというが、

経費削減を目的とした教育行政の行革ではないのか。  
**答弁** 市立中学校の適正配置については、平成十年に「桐生市立小中学校適正配置検討委員会」が設置されて以来、学校教育に携わる多くの人達と共に、様々な角度から検討してきたものであり、あくまで、教育的な視点での統合案である。

## 行政機構

**質問** 企画担当と財政担当を所管する部が同一のため、財政部門を優先してしまふ傾向がある。人口の減少や産業の低迷などの現状を考慮して、それぞれの部に分けたらどうか。

**答弁** 平成十七年度に向けて、現在機構改革の具体的な検討を進めている。現在、市民に夢を与えられるようなビジョンが少なく残念な状況となっているが、合併を契機に、厳しい財政状況の中でも、新たなまち

づくりの観点から、創造的で魅力ある政策も必要と考えている。

## カワウによる食害

**質問** 渡良瀬川のアユやヤマメが、カワウの食害にあっていると聞いたが、状況はどうか。また漁業組合に対しての支援はどうか。

**答弁** カワウは県漁連の調査によると、平成十二年に高津戸ダム周辺に三百羽から六百羽ほど確認されている。被害額の算出は難しいが、漁業被害を防ぐため、県漁連が中心になって、流

(アユ釣り)



し針による捕獲を実施している。なお、両毛漁協と今後も協力し合い、できる支援を行っていききたい。

## 自動体外式除細動器

**質問** 平成十七年度に設置予定の自動体外式除細動器（保健福祉会館健康チェックコーナー）



器（AED）はどのようなものでどこに設置するのか。

**答弁** 自動体外式除細動器の機能として、単相性と二相性があるが、安全で除細動効果が高いと推奨されている二相性の機器の設置を考えている。また、設置場所については、除細動器を市民に周知することも視野に入れ、保健福祉会館の一階に設置することを考えている。

## 防災公園

**質問** 仮に桐生市が大災害に見舞われた場合に、市

民は避難を余儀なくされるわけだが、その避難場所はどのようになっているのか。また、防災公園の建設についての考えはあるのか。  
**答弁** 大きな震災時の避難場所として、市内のすべての小・中・高等学校及び公民館併せて四十七か所を避難場所として指定している。また、平常時には、都市公園として、震災時には地域防災拠点として、防災公園が目ざされており、今後、都市公園整備との整合性に留意しながら研究していききたい。



## 消防問題

**質問** 消防職員の「タダ働き」の訴えの実情と改善

(桐生広域消防本部)



についてはどうなのか。

**答弁** 火災や救急、地震、テロ災害など、消防の対応する事象は、複雑、多様化しており、こうした事象に十分対応できる体制の整備には、研修訓練は必要不可欠であり、非番日において自主参加という位置づけで実施してきたが、時間外勤務手当を支給すべきとの要求があり、検討の結果、実働時間の振替処理を通知したところである。

## 住民名簿

**質問** 平成十六年九月議

会で質問した、行政協力委員に配布した住民名簿については、その後どうなっているのか。

**答弁** 議会で指摘を受けた住民名簿について、内部検討を重ね、新年度から住所、氏名、生年月日、性別の基本四情報のみを掲載したリストで、広報の配布、行政と市民との連絡などに限定して使用するものとして、町会代表に送付するよう準備している。なお、以前配布した住民名簿について現存するものは、すべて回収する予定である。

## 桐生市ホームページ

**質問** 桐生市のホームページの作成基準はどうなっているのか。六月十三日の合併によりホームページの内容変更はあるのか。また、新里・黒保根村への配慮はどうか。

**答弁** 作成基準は、全市民にお知らせすべき事項や誰でも参加できるイベント情報、行政情報を中心に掲載している。合併により、新里・黒保根村のホームページは閉鎖し、桐生市のホームページに統合となるが、

必要な情報は事務事業の一元化と併せて調整し、新市のホームページには漏れないよう取り組みたい。  
(桐生市ホームページ)



## シルバー人材センター

**質問** 桐生市シルバー人材センターの事業目的とその利用状況はどうなのか。

**答弁** シルバー人材センターは、高齢者の就業機会の増大と能力を生かした活力ある地域社会づくりを目的としている。現在の会員数は三百七十人余りで、受注件数は、平成十五年度では二千七百七十九件であるが、前年度と比較すると、会員数、受注件数、契約金額ともにそれぞれ減少している状況である。

## コミュニティスクール

**質問** コミュニティスクールの生まれた背景と内容はどのようなものか。

**答弁** コミュニティスクールは、保護者や地域住民などが一定の権限と責任を持って主体的に学校運営に参画することで、地域に開かれた信頼される学校づくりを目指したものである。内容は、学校における教育課程編成の基本方針、予算執行や人事配置などに関わる基本方針、当該学校運営の大綱について、校長など

## 議会の議員の報酬の特例に関する条例

厳しい社会経済情勢のもと、市財政の再建に向けた決意をあらわすため、四月一日から一年間の時限措置として、議員の報酬月額を百分の五減額しようとするため、議員より提出されたものであります。審議の結果、原案のとおり可決しました。

### 条例施行日

平成十七年四月一日

## \* 請願の審査結果 \*

この定例会では、請願14件の審査を行いました。その中で3件を採択とし、その他の11件は閉会中の継続審査となりました。採択された3請願は次のとおりです。

なお、議会は、採択となった3請願に係わる意見書を議決しました。(同意見書は8ページに掲載)

\*\*\*

請願第10号…「食料・農業・農村基本計画」見直しに関する請願

請願第11号…WTO・FTA交渉に関する請願

請願第16号…雇用対策と地域活性化を重視した政府予算編成を求める意見書採択請願

## 環境問題

の提案に基づいて承認を行うなどがある。県内には指定校はないが、同制度の研究を深めたい。  
(市内の小学校)



**質問** 京都議定書に関し、CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)削減の貢献に対する優遇措置及び削減量の算定方法はどうか。

**答弁** 国において、「目標達成計画」を作成中であり、削減に努力した事業者への優遇措置は現時点では決定していないが、削減に努力した企業が正当に評価される仕組みが求められている。算定方法は、燃料使用量、電気使用量などの活動量に、排出量を算定するための排出係数を乗じて求める。